

<p>書名</p> <p>項目</p>	<p style="text-align: center;">新編 新しい社会 歴史</p> <p style="text-align: right;">2 東書</p>
<p>教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり</p>	<p>○多様な学習活動コーナーや特設コーナー、コラム欄を設けて社会や学習に対する関心を高め、歴史の大きな流れへの理解や、思考力・判断力・表現力を育てようとしている。</p> <p>○小学校での学習内容や地理・公民分野との連携を重視して、多面的・多角的に考察する態度を育てようとしている。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">特色</p> <p style="text-align: center;">内 容</p> <p style="text-align: center;">資 料</p> <p style="text-align: center;">表記・表現</p>	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <p>○見開きを1単位時間として「見通し」「展開」「振り返り」の流れで構成し、各時代の学習を「時代全体の見通し」「具体的な通史の学習」「基本事項のまとめ」「時代の特色をとらえる言語活動のまとめ」の流れで構造化している。</p> <p>○歴史の学習や調査学習を進めるうえでの基礎的・基本的な技能を身に付ける「歴史スキルアップ」「調査の達人」を計17か所設けている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○見開きの終わりに「確認」コーナーを設け、学習内容を短時間で自分の言葉でまとめる言語活動を繰り返すようにしてあり、その活動内容も1学年から3学年までの発達段階に応じた難易度で設定している。章末にも「時代の特色をとらえる言語活動のまとめ」を設けて多様な言語活動の充実をはかっている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○見開きの最初の「導入資料」で興味・関心を引き出し、中学生キャラクターの吹き出しで資料読み取りの視点を示し、学習活動を促す「えんぴつマーク」「ためしてみよう」や余談を紹介する「ティーブレイク」などのコーナーを設けている。</p> <p><我が国の歴史に対する理解と愛情を深めさせる工夫></p> <p>○郷土を愛する意識を養うために、6つの時代に「私たち歴史探検隊」を設けて、身近な地域の歴史の調査方法を紹介したり、近代以降の人物と郷土とのつながりを意識させるため肖像に出身県を付したりしている。</p> <p>○各章のはじめに「時代を概観しイメージする導入部」を設け、各時代の資料を並べて学習の流れをつかめるようにしている。</p> <p>○見開きの最初に「導入資料」を掲載して、中学生キャラクターによる吹き出しで資料読み取りの視点が提示されている。</p> <p>○小さな資料は実物大で載せ、大きな資料にはサイズを付している。</p> <p>○文章は敬体（です、ます）で、ユニバーサルデザインによる配色やレイアウトをしている。</p> <p>○時代ごとに印刷の枠色を変え、各見開きに時間尺を付している。</p> <p>○巻末に用語解説のページを設け、110項目を解説している。</p>
<p style="text-align: center;">総 括</p>	<p>○他分野の教科書と共通の資料を掲載し、マークを付して多面的・多角的に学習できる工夫がされている。小学校で学習した資料も重複して使い、中学校での学習に系統性をもたせている。</p> <p>○章末で復習する「この時代の歴史の学習を確認しよう」の年表と次章扉の年表とを連続させ、時間の流れを意識させる構成にしている。</p>

<p>書名</p> <p>項目</p>	<p style="text-align: center;">中学社会 歴史 未来をひらく</p> <p style="text-align: right;">17 教出</p>
<p>教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり</p>	<p>○本文では詳しく触れられない事項や人物を、各時代の特色として特設ページで取り上げ、歴史的事象への関心を高め、歴史の大きな流れへの理解を深めさせようとしている。</p> <p>○各節の単元を基本的に「世界の動き→日本の動き」の順で構成し、時代背景を広い視野に立って考えさせようとしている。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl;">特色</p> <p style="text-align: center;">内 容</p> <p style="text-align: center;">資 料</p> <p style="text-align: center;">表記・表現</p>	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <p>○見開きを1単位時間として、始めに「学習課題」、終わりに「ふりかえる・ステップ1」を設けて見通しと振り返りをし、章末に取り組む「学習のまとめと表現」と合わせて、段階的な学習を通した学力向上を図っている。</p> <p>○章末に「時代の変化に注目しよう」を設け、その章で学習した時代についての知識を再確認させ、次章につなげるようにしている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○見開きの「ふりかえる・ステップ2」「読み解こう」のコーナーでは、本時の学習内容の要約や、資料からの読み取り内容を説明する活動を設定している。章末の「学習のまとめと表現」には、「読む（聞く）→考える→書く（話す）」という活動を取り入れ、多様な言語活動の充実をはかっている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○見開きの主題は学習内容を象徴する言い回しの見出しにし、中学生キャラクターも登場して興味・関心をひく構成にしている。「学習課題」で課題意識をもち、「ふりかえる」「読み解こう」や章末の「学習のまとめと表現」で復習ができるようになっている。</p> <p><我が国の歴史に対する理解と愛情を深めさせる工夫></p> <p>○身近な地域の歴史を調べる学習を時代ごとに5か所で設定し、郷土の伝統と文化への関心を高める観点や学び方の手がかりを「地域調査の手引き」で示している。</p> <p>○巻末の年表は全時代を一覧できる両開き折り込みにしている。</p> <p>○各見開きの最初に中学生や教師のキャラクターが出て、吹き出しで資料読み取りの視点や学習のポイントを提示している。</p> <p>○人物の肖像にマークを付し、小学校で登場した人物とこの教科書で登場する人物とを明らかにしている。</p> <p>○文章は敬体（です、ます）で、ユニバーサルデザインによる配色やレイアウトをしている。</p> <p>○時代ごとに印刷の枠色を変え、各見開きに時間尺を付している。</p> <p>○1学年の学習範囲では、小学校6学年の配当漢字にもふりがなを付している。</p>
<p style="text-align: center;">総 括</p>	<p>○章末等には、24のテーマからなる特設ページが入り、大きな資料と簡潔な文章で時代の特色をとらえやすく構成している。</p> <p>○章末に「学習のまとめと表現」が設けられ、年表や「時代の変化に注目しよう」などで復習やまとめをし、ここで見た資料と次章扉の資料が連動する構成になっている。</p>

書名		35 清水
項目	中学 歴史 日本の歴史と世界	
教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<p>○日本の歴史を核にしなが、近隣諸国や西洋との歴史的環境についても古代から近代まで系統的に記述し、国際協調の精神を養おうとしている。</p> <p>○歴史的資料をはじめ、地図・グラフなども時代の特色をとらえやすいように掲載し、歴史にまつわるエピソードや歴史学の方法論に関する特設ページとあわせて多面的・多角的に考察できるようにしている。</p>	
特色	内容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <p>○見開きを1単位時間として、始めに学習のめあて、終わりに「まとめてみよう」を設け、見通し→展開→振り返りの流れで構成している。また、章扉で課題を示し、章末でまとめる構成をとっている。</p> <p>○調べ学習の方法・技能を習得させるために、6か所の「歴史のとびら」を設けている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○見開きの終わりの「まとめてみよう・深めよう」、随所に挿入される図版や資料を読み取るためのヒント、章末のまとめのページなどで、生徒自らが作業を行って歴史理解を進め、歴史的意義を探究し、的確な判断力や豊かな表現力を養うための言語活動ができるようにしている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○見開きの学習のめあてと「まとめてみよう」という生徒への具体的課題が設定されていて、授業への参加がしやすくなっている。また、歴史にまつわるエピソードを取り上げた9か所の「もっと知りたい歴史」によって、本文の通史以外のから歴史的事象に興味を高めさせるようにしている。</p> <p><我が国の歴史に対する理解と愛情を深めさせる工夫></p> <p>○二つの特設コーナー「もっと知りたい歴史」と「歴史のとびら」をあわせた15のテーマのうち、12のテーマは多くの地域調査につながるものであり、これらの活用を通じて地域への理解が深められるようになっている。</p>
	資料	<p>○古代から近世までの人びとの服装は独自のイラストで示し、陶磁器や仏像には大きさを付している。</p> <p>○世界史をとらえるための世界歴史地図を大きく掲載している。</p> <p>○使用頻度が高い「国県対照図」や現代の「世界の地図」を、巻末や折り込みに大きいサイズで配置している。</p>
	表記・表現	<p>○文章は常体（だ、である）で、ユニバーサルデザインによる配色やレイアウトをしている。</p> <p>○時代ごとに印刷の枠色を変えている。</p> <p>○巻末の人名さくいんで、小学校の既習人物に肖像画を付している。</p>
総括	<p>○B5判であるため、特設コーナーの構成を簡潔にしている。「歴史のとびら」では歴史学の6つの方法論を取り上げ、「もっと知りたい歴史」では歴史を多面的に学ぶために9つのテーマを取り上げている。</p> <p>○「地図で見る世界史」として原始・古代から中世の3か所で、アジアからヨーロッパにかけての状況を地図と資料でまとめている。</p>	

<p>書名</p> <p>項目</p>	<p>社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き</p> <p style="text-align: right;">46 帝国</p>
<p>教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり</p>	<p>○異なる考えや対立する考えを併記し、女性の社会的立場や差別された人々などの人権にかかわる記述を紹介して、多面的・多角的に歴史を考えられるようにしている。</p> <p>○文化のページを多くとることによって、文化を育んだ人々とその社会背景を理解し、人物や文化遺産を尊敬する態度を育てるようにしている。</p>
<p>特 色</p> <p>内 容</p> <p>資 料</p> <p>表記・表現</p>	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <p>○見開きの1単位時間分を、興味・関心を引く「導入」資料、学習を見通す「学習課題」、学習内容を振り返る「確認しよう」の流れで構造化し、各部にも見通しの「タイムトラベル」と振り返りの「学習をふりかえろう」を設けている。</p> <p>○「技能をみがく」コラムを11か所設け、歴史の調査やまとめに必要な基礎的技能を身につけるようにしている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○見開きの最後に「説明しよう」が設けられ、本時の学習内容にもとづいて思考し、判断・表現する活動を毎時間繰り返し行えるようにしている。部末の「学習をふりかえろう」でも「説明しよう」を設けて多様な言語活動を取り入れている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○予習・復習をしやすいように、各見開きに「学習課題」「確認しよう」「説明しよう」が、各部末には復習のために「学習をふりかえろう」を設けている。また、中学生キャラクターによる発問や気づきなどの提示で学習の視点をとらえやすくしている。</p> <p><我が国の歴史に対する理解と愛情を深めさせる工夫></p> <p>○学習した内容を地域の具体例に照らし合わせて掘り下げる「歴史を探ろう」を、11か所設けて、地域から歴史をとらえられるようにするとともに、コラムとして「地域史」を22か所設けて関心を深めさせるようにしている。</p> <p>○各時代の冒頭に「タイムトラベル・○○時代をながめてみよう」というイラストを示し、時代の様子をとらえて学習がはじめられるようにしている。</p> <p>○各見開きの最初に「導入資料」を掲載し、中学生キャラクターによる吹き出しで資料読み取りの視点を提示している。</p> <p>○各時代の文化は4ページ取りで、資料を大きく載せている。</p> <p>○文章は敬体（です、ます）で、時代ごとに印刷の枠色を変え、ユニバーサルデザインによる配色やレイアウトをしている。</p> <p>○用語解説は、54項目を該当ページに適宜挿入している。</p> <p>○巻末に人物さくいんを設け、活躍した分野を記号化して付している。</p>
<p>総 括</p>	<p>○「タイムトラベル」での見開きイラストを使って、各章のはじめの学習課題と、章末の振り返りの活動を連携させている。</p> <p>○地図や鳥瞰図を多用して、地理的分野との関連をとらえやすくする工夫をするるとともに、文化史のページにおける美術作品等の占めるスペースを大きく取っている。</p>

<p>書名</p> <p>項目</p>	<p style="text-align: center;">中学社会 歴史的分野</p> <p style="text-align: right;">116 日文</p>
<p>教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり</p>	<p>○各時代に、意欲的に学習に取り組むことを目的にした「導入」を設定し、各時代の前半部分に「時代の転換のようす」を置き、編末の「まとめ」で、既習の知識を活用して、時代の大きな流れを理解させるようにしている。</p> <p>○特設ページで幅広いテーマを取り上げ、今日的課題の歴史的背景や先人の業績を学んだりして、人物や文化遺産を尊敬する態度を育てようとしている。</p>
<p>特 色</p> <p>内 容</p> <p>資 料</p> <p>表記・表現</p>	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <p>○見開きを1単位時間として、始めの「学習課題」で何を学ぶかを明示し、終わりの側注欄に「学習の確認」を設けて、学習のポイントの確実な定着をねらいとした学習活動を提示している。</p> <p>○「スキルUP」を7か所設け、歴史の調査やまとめに必要な基礎的技能を身に付けさせようとしている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○見開きの終わりの「学習の活用」、各時代の「導入」と「学習の活用—とらえよう！時代の特色」、各時代の前半部分の「とらえよう！時代の転換」、編末の「学習の活用—とらえよう！時代の特色」などで言語活動を設定し、わかったことを自分の言葉で表現する多様な活動ができるように構成している。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○各見開きの「学習の確認と活用」、各時代の「とらえよう！時代の転換」や「学習の活用—とらえよう！時代の特色」などの言語活動は、課題の発見と解決に向けて生徒が主体的・協働的に学ぶようにしている。また、10か所の「歴史を掘り下げる」で歴史的事象への関心を高めている。</p> <p><我が国の歴史に対する理解と愛情を深めさせる工夫></p> <p>○6か所の「でかけよう！地域調べ」と8か所の「先人に学ぶ」で、身近な地域の歴史や先人の業績への関心を育て、身近にある具体的な事例との関わりのなかで我が国の歴史を理解させようとしている。</p> <p>○各編・章の導入に「地図で見る世界の動き」をおき、世界の様子を概観して、世界の動きの中での日本史をとらえやすくしている。</p> <p>○各編に「図版特集」をおいて、衣食住や町のようすなどをとらえやすくし、巻末に「歴史学習の基礎資料」を載せている。</p> <p>○中学生キャラクターによる吹き出しで資料読み取りの視点を提示している。</p> <p>○文章は敬体（です、ます）で、ユニバーサルデザインによる配色やレイアウトをしている。また、脚注に小学校や他分野、他項での学習との関連事項を示す。</p> <p>○時代ごとに印刷の枠色を変え、各見開きに時間尺を付している。</p> <p>○巻末のさくいんは、人名・事項のほかにテーマ別の項目を設けている。</p>
<p>総 括</p>	<p>○各編・章のはじめに大判の資料を配し、これから学習する時代のイメージをとらえるとともに、次の見開きに「地図で見る世界の動き」をおき、世界の動きと日本との関係を理解しやすくしている。</p> <p>○各時代の途中に「図版特集」や「とらえよう！時代の転換」をおいて、時代像の特色をとらえさせようとしている。</p>

<p>書名</p> <p>項目</p>	<p style="text-align: center;">中学社会 新しい歴史教科書</p> <p style="text-align: right;">225 自由社</p>
<p>教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり</p>	<p>○7世紀と19世紀後半を我が国の2度の自立国家形成過程として重点的に時間を配分し、我が国の伝統と文化の特色を広い視野に立って考えさせようとしている。</p> <p>○各時代に日本人が外部の人々から評価された資料を載せ、我が国の歴史に対する愛情を深め、国民としての自覚を育てようとしている、</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl;">特色</p> <p style="text-align: center;">内 容</p>	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <p>○見開きを1単位時間として、始めに学習課題を示し、終わりの「まとめにチャレンジ」で学習を振り返る作業をして復習の手がかりにする構成になっている。</p> <p>○各章末にキャラクターによる時代区分についての問答コーナーを設け、会話のやり取りを通して前後の時代との違いをとらえやすくしている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○各見開き終わりの「まとめにチャレンジ」での説明する作業、各章末のまとめ「○○とはどんな時代か」での時代の特色をまとめる作業、巻末の「日本の歴史の特色は何か」での日本史全体を6つの課題にもとづいてスピーチ原稿にまとめる作業と、多様な言語活動を設定している。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○「もっと知りたい」「人物クローズアップ」「外目から見た日本」の3つの特設コーナーを、合わせて35のテーマで設けており、本文以外のエピソードや人物像を読み物形式で知ること、歴史に対する興味・関心を深めながら学習に取り組みせようとしている。</p> <p><我が国の歴史に対する理解と愛情を深めさせる工夫></p> <p>○「神話が語る国の始まり」を1単元として2ページ分に取り扱うほか、特設コーナー「外目から見た日本」や、巻末の「日本の歴史の特色は何か」で我が国の特徴をとらえさせようとしている。</p>
<p style="text-align: center;">資 料</p>	<p>○章扉では中学生キャラクターが写真資料を見ながら、各時代の特色や視点を会話形式で提示している。</p> <p>○人物の肖像資料を多く載せている。</p> <p>○年表は巻末に通常ページの5ページ分で掲載している。また、裏表紙見返しに年号・西暦早見表を掲載している。</p>
<p style="text-align: center;">表記・表現</p>	<p>○文章は常体（だ、である）である。</p> <p>○時代ごとに印刷の枠色を変え、小単元には全編の通し番号を付けている。</p> <p>○各章末に「歴史豆辞典」として15項目ずつの100字用語解説を設けている。また、側中欄の注釈の項目数も多い。</p>
<p style="text-align: center;">総 括</p>	<p>○B5判であるが、35のテーマの特設コーナーを掲載し、日本人の特徴について目を向けさせようとしている。</p> <p>○我が国の伝統と文化の特色を広い視野に立って考えさせることと、我が国の歴史に対する愛情を深め、国民としての自覚を育てることに重点を置いた構成になっている。</p>

書名		227 育鵬社
項目	新編 新しい日本の歴史	
教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<p>○各章扉の「海洋国家日本のあゆみ」で古代からの海外との交流に気づかせ、6か所の「このころの世界は」で世界史の中の位置づけを理解させる構成をとり、国際協調の精神を養うようにしている。</p> <p>○人物を取り上げたコラムや各時代を代表する女性を集めた特設コーナーが工夫され、歴史上の人物を尊重する態度を育てるようにしている。</p>	
特 色	内 容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <p>○見開きを1単位時間として、「つかむ、調べる、まとめる」という問題解決型に教材を配列し、導入資料と学習課題によってつかみ、本文と図版資料で調べ、最後の学習のまとめで振り返りができるように構成している。</p> <p>○「課題学習」で博物館での調査方法や歴史新聞の作成方法を示し、巻末に博物館等のホームページの一覧を掲載して調査技能のアップをはかっている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○見開きの終わりには、学習した内容を説明するための設問をおき、論述形式でまとめたり、自分の考えを発表したりするなどし、各章末の「学習のまとめ」では、ワーク的な活動のほかに生徒が自らの言葉で時代の特色を表す課題を設定して、多様な言語活動の充実をはかっている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○6か所の「課題学習」で、生徒自らが聞き取りをする調査やグループ学習、作業的・体験的学習など、生徒が主体的、意欲的に友達と協働して学ぶ活動を配置している。また、15か所の「歴史ズームイン」で歴史的事象への関心を高めている。</p> <p><我が国の歴史に対する理解と愛情を深めさせる工夫></p> <p>○「課題学習」「人物クローズアップ」「歴史ズームイン」の3つの特設コーナーの半数以上で、各テーマに関連する身近な事象について調べてみることで、キャラクターの吹き出しによって勧められている。</p>
	資 料	<p>○各章の導入の「歴史絵巻」でのイラストと、次の「〇〇へようこそ」での大判の絵画で、時代の特色をとらえられるようにしている。</p> <p>○見開きの最初に「導入資料」を掲載し、中学生キャラクターによる吹き出しで資料読み取りの視点を提示している。</p> <p>○仏像・美術作品・工芸品等の写真資料には実寸を併記している。</p>
	表記・表現	<p>○文章は敬体（です、ます）で色覚に留意した色彩や紙面デザインにしている。</p> <p>○時代ごとに印刷の枠色を変え、小單元には全編の通し番号を付けている。</p> <p>○側注欄の注釈の項目数が多い。また、巻末の索引は、人名・事項ともに本文中の太字用語がわかるようにしている。</p>
総 括	<p>○各章の構成が簡潔で、章扉に「海洋国家日本の歩み」の資料を載せ、導入の「鳥の目で見える歴史絵巻」で時代の流れを大局的に見せ、「虫の目で見える〇〇の世界へようこそ」で絵画資料の細部に注目させている。</p> <p>○各章の途中の「このころの世界は」で世界史と日本史のつながりに気づかせ、「なでしこ日本史」での15人の女性のほか、多くの人物に注目させている。</p>	

*P30の人形埴輪は、名称「踊る埴輪」だが、踊っているのではない説が有力。大里郡出土になっているが、旧大里郡江南町なので、現在は熊谷市出土が正しい。